

平成25年度 糸魚川市教育研究会 国語部の活動報告

部長 小野 雅子 副部長 松澤 隆 渡辺 徳彦
部員数 小学校 19名, 中学校 9名, 特別支援学校 1名, 計 26名

1 研究主題 「言語活動を核として、思考表現を促す国語科学習」

2 研究の概要

国語部では、「言語活動を核として、思考表現を促す国語科学習」を研究テーマに掲げ、言語活用力や思考力、表現力を高める授業改善に取り組んできた。今年度は、小・中の連携による国語科研修の充実及び学習指導の創意・工夫を図ることを優先課題とし、市内での各種国語教育研究発表の指定を受けた研究会との共催で2回の研修会を実施した。

3 研究の実際

(1) 県中学校教育研究会上越地区国語教育研究発表会（共催）

日時：平成25年10月30日（水）13:10～16:30

授業者：糸魚川市立糸魚川東中学校 朝比奈 絹恵 教諭

指導者：上越教育事務所 中林 郁郎 指導主事

①単元・題材名「握手」井上ひさし（小説）中学3学年

②本時のねらい（8/9時間）

- ・作品のよさや価値について、根拠を明確にして意見を交流し、読みを深める。

③ 展開の構想

○批評の視点をもとに、作品の価値付けを行う

- ・指言葉や握手等の象徴性、過去と現在を交差させる構成等、自分なりに批評の視点を選び作品を読み進め、「わたし（生徒自身）にとって、『握手』は□□□な作品だ」という価値付けを行う。

○ワークシートを活用してグループから自分の読みを深める

- ・作品のテーマや自分の考え等をワークシートに書き込み、班内で意見を交換する。全体での意見交流場面では、友だちの発表に耳を傾け意見の違いを大事にし、視点や読み、発見を的確に捉える。



(2) 上越国語連絡協議会秋季研修会（共催）

日時：平成25年11月8日（水）13:30～16:50

授業者：糸魚川市立糸魚川小学校 谷内 卓生 教諭

指導者：筑波大学附属小学校 二瓶 弘行 教諭（講演会講師）

①単元・題材名「海の命」立松和平（物語）小学6学年

②本時のねらい（8/10時間）

- ・太一がクエと戦わなかった理由を考えることを通して、作品が自分に語りかけてきたこと（作品のこころ）を短い言葉にまとめることができる。

③ 展開の構想

○クライマックスの問いについて考え、読みを深めていく

- ・前の学習をもとに、太一はどのようにクエと戦わなかったのか、クライマックス場面について考え、短冊に書き発表する。それらを移動させながら考えを収束させていく。

○ジャム対話、自己内対話、ペア対話、全体対話を通して自分の意見を発表する

- ・ジャム対話（同じ考えの仲間が席を移動し意見を交流させる対話）や各対話を組み合わせて読み深める。
- ・自己内対話で2回出てくる「海の命」という言葉は、同じ意味なのか課題に対する自分の考えを書く。



(3) 各自の授業実践レポートを各学年 特別支援学級別に集約し1冊のファイルにまとめた。（毎年）

研究主題にそって、部員が国語科授業実践レポート（A4で1枚）を11月までに提出し、12月に集約した。

4 成果と課題

○思考力・表現力を高める工夫として、全単元を通して批評読みやクライマックス場面を考えさせる学習活動は、生徒・児童の主体的な読みに繋がり有効的であった。ただ、多様な意見が出たときに授業者がどのようにまとめていくのが課題となる。

○ペアやグループ学習でのかかわり合いや発表、振り返り、主題追求の対話等の言語活動を取り入れた授業構成は、小説・物語を自分の力で読み取れない生徒や児童にとっては有効的であった。

○授業実践集録レポートに研究授業の指導案も加え、市内の小中学校に配布。今後も授業研究の成果を活かしながら、市内全体の国語科教育の指導力向上、実践力向上に努める。